

ものづくり愛知県における安全・安心な生活基盤の確保（防災・安全）

計画概要

◆計画期間

平成27年度～平成31年度（5年間）

◆計画の目標

洪水や高潮との闘いの歴史を継承し、地域と連携して平野部を中心としたハード対策や大規模災害に備えた施設づくりを実施し、風水害に対して安全・安心な地域を形成する。

◆計画の成果目標（定量的指標）

指標①：当面の計画規模の降雨に対し、未だ浸水被害を受ける可能性のある戸数を約77,727戸から74,774戸に減少。

指標②：県内の河川改修が必要な区間の整備率を53%（H26末）から54%（H31末）に増加。

指標③：水害状況の早期把握、水害の伝達時間の短縮のため、水位観測網等を211箇所（58河川）から258箇所（71河川）に増加。

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A 河川事業	6,538百万円	安永川、日光川、鹿乗川等の河川事業について護岸改修、橋梁改築等を実施。	45%
B 関連社会資本整備事業	0百万円		%
C 効果促進事業	240百万円	浸水想定区域図の作成等、効果促進事業を実施。	39%
合 計	6,778百万円		

※事業費は実績額

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

※計画の一部を他事業費により実施

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況（別紙1）

- ・木曾川水系新郷瀬川広域河川改修事業（新郷瀬川）・・・別紙1
- ・矢作川水系安永川都市基盤河川改修事業（安永川）・・・別紙2
- ・天白川水系天白川広域河川改修事業（天白川）・・・別紙3

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①(当面の計画規模の降雨に対し、未だ浸水被害を受ける可能性のある戸数を約77,727戸から74,774戸に減少。)

最終目標値	74,774戸 (2,953戸減少)	目標値と実績値 に差が出た要 因	本計画における交付金事業費の減少により、事業計画に遅れが生じたため。
最終実績値	75,077戸 (2,650戸減少)		

指標②(県内の河川改修が必要な区間の整備率を53%(H26末)から54%(H31末)増加。)

堤防等の機能維持に努め、県内の河道改修が必要な区間の河川整備率
(河川改修が当面の計画規模で完了した区間の延長)/(県内の河川改修が必要な区間延長)

最終目標値	54%	目標値と実績値 に差が出た要 因	-
最終実績値	54%		

指標③(水害状況の早期把握、水害の伝達時間の短縮のため、水位観測網等を211箇所(58河川)から258箇所(71河川)に増加。)

観測網:(水位観測網等を整備した箇所数)/(対象流域内の水位観測網等が必要な箇所数)

最終目標値	66%	目標値と実績値 に差が出た要 因	新たに開発された、低コストの危機管理型水位計及び簡易型河川監視型カメラの設置を進めたため、事業の進捗を図れた。
最終実績値	81%		

◆今後の方針

・洪水や高潮との闘いの歴史を継承し、地域と連携して平野部を中心としたハード対策や大規模災害に備えた施設づくりを実施し、風水害に対して安全・安心な地域を形成するため、R2年度から新たな計画を策定し、河川整備によりその実現に努める。

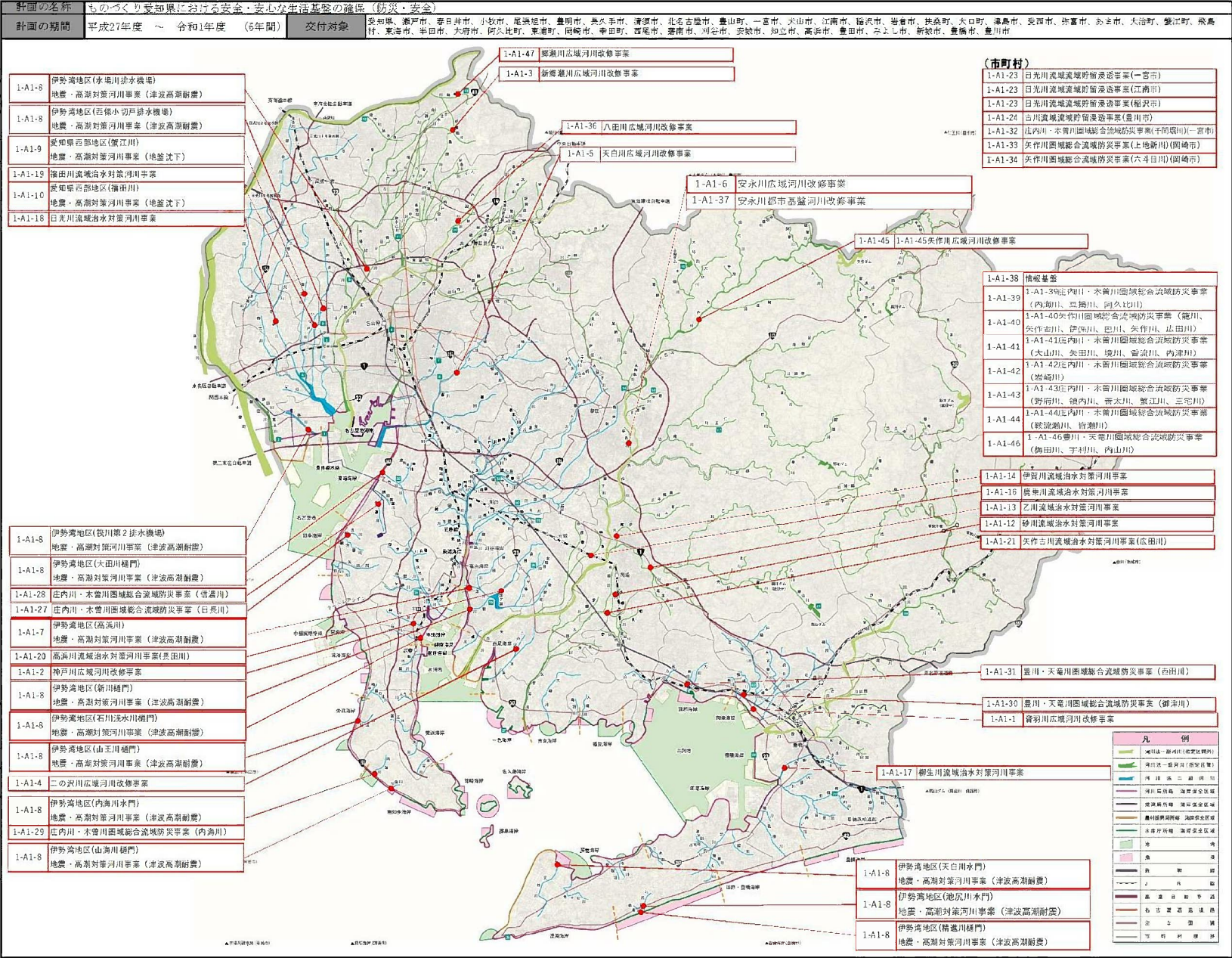
・未完了の事業については、早期整備完了を目指す。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	策定主体にて評価を実施。 なお、計画の各要素事業(基幹事業)は愛知県公共事業評価実施要領に基づき評価を実施。
事後評価の実施時期	2022年3月
公表の方法	WEBページ掲載 (http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kasen/0000039039.html)

参考図面

【図面】(河川事業)



【基幹事業】

■事業名

広域河川改修事業

■工事概要

新郷瀬川は、一級河川木曾川左岸に流入する郷瀬川の左支川であり、流域面積45.8km²、流路延長7.0kmの一級河川である。その上流には国内最大規模の人工農業用ため池である「入鹿池」を抱えている。

この入鹿池は、明治元年に長雨によって水嵩が増し、堰堤の決壊（入鹿切れ）により丹羽・中島、春日井、海部の4郡に及ぶ甚大な浸水被害が生じたことから、沿川農地の灌漑排水を目的として、郷瀬川と入鹿池とを接続する放水路として昭和19年に新郷瀬川が整備された。

こうしたなか、平成22年7月の豪雨により、入鹿池の洪水吐を超えた流水が河川堤防満杯で流下し、床上3戸、床下12戸の浸水被害が生じたことを契機に、明治時代の入鹿切れの再発を防止するために、約L=3.0km（橋梁改築10橋、取水堰等2箇所、関西電力鉄塔1箇所）の年超過確率1/10の河道改修を行った。

■事業箇所

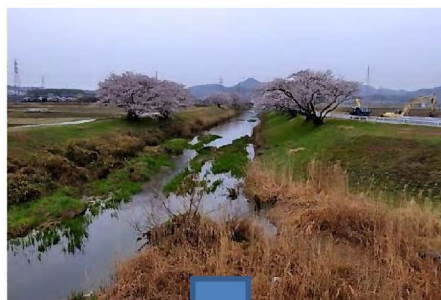
犬山市

■事業主体

愛知県

■事業効果

年超過確率1/10の河道を確保することで平成22年の浸水被害を解消し、改修前と比べ最大約0.60mの水位低減効果が期待できる。



1k700付近:河道拡幅の様子

2号橋:橋梁改築の様子



H22.7浸水被害の様子

【基幹事業】

■事業名

安永川都市基盤河川改修事業

■工事概要

安永川は豊田市の中心市街地を流域とし、延長3.5kmの内、約1.3kmが昭和10年代に築造された河川トンネルである。その流下能力は年超過確率1/1程度(流下能力10m³/s)と極めて低く、平成12年9月の東海豪雨では床上・床下あわせて145戸が浸水被害を受けることとなった。このことから、平成14年度から都市基盤河川改修事業を実施し、そのうちのトンネルから下流の合流樋門までの第1期区間及び第2期区間が完成したことにより年超過確率1/10の治水安全度が確保された。

■事業箇所

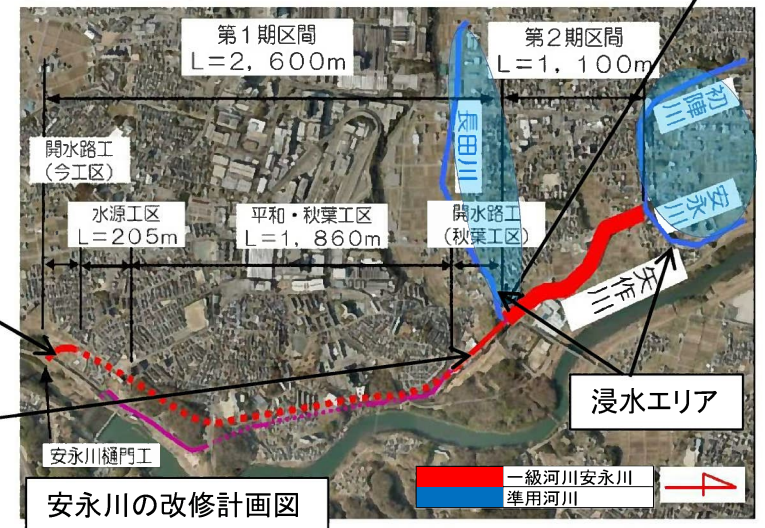
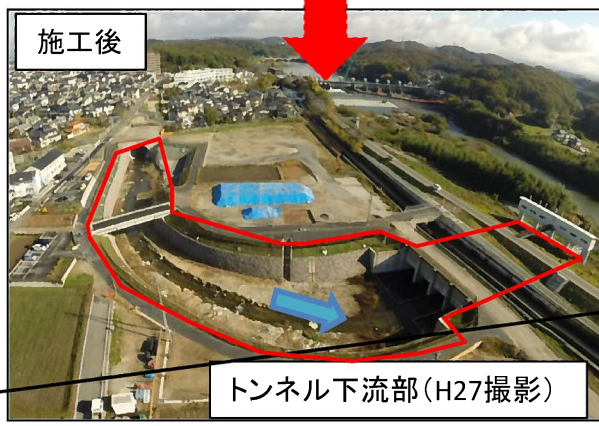
豊田市

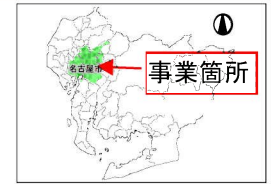
■事業主体

豊田市

■事業効果

第1期区間の通水効果により床上浸水被害予測19ha低減。





■事業名

天白川水系天白川広域河川改修事業(天白川)

■工事概要

名古屋市南部に位置する天白川は、流域面積の約7割を名古屋市が占め、流域の大半が市街地となっている。また、平成12年9月の東海豪雨では、床上・床下あわせて約8,200戸の浸水被害が生じた。

現在、菅田橋下流(8k500)から岩崎川合流点までの約8.3kmの改修を河川整備計画に位置付けており、当面の整備区間として、植田川合流点(10k800)までの約2.3km区間において、天井川の解消、洪水時の水位低下及び支川の排水性の向上を図るために、河道掘削及び護岸工を実施した。

■事業箇所

名古屋市

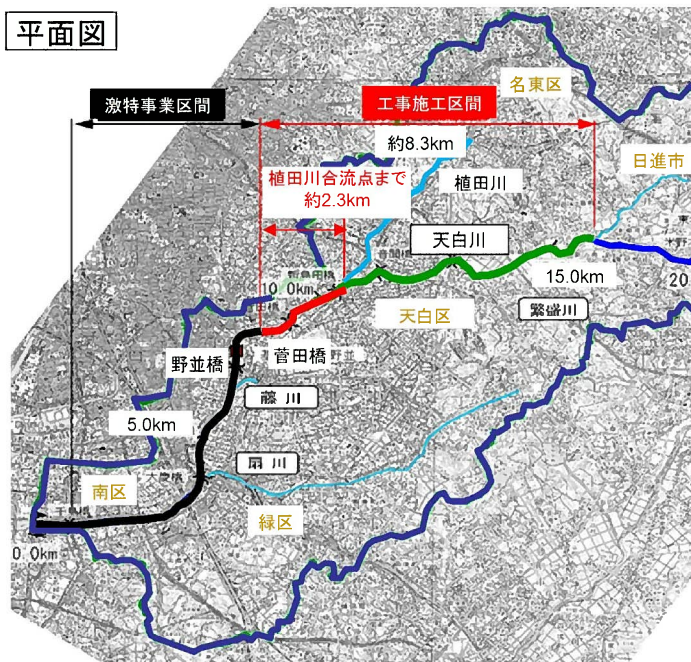
■事業主体

愛知県

■事業効果

流域内の名古屋市及び日進市で想定される被害総額約660億円及び影響人口約32万人の浸水被害の軽減に繋がる。

平面図



護岸ブロック据付後、表面を覆土



天白緑地橋付近の河道拡幅の様子